

事例研究

はり師・きゅう師国家試験の経絡経穴概論における 経穴および奇穴の出題傾向

長岡 伸征, 松岡 慶弥, 浦田 繁

鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科

キーワード： 経絡経穴概論, 経穴, はり師, きゅう師, 国家試験

要 旨

はり師・きゅう師国家試験（以下、国家試験）では経絡経穴概論の出題数が多く、なかでも経絡経穴概論の出題内容に含まれる経穴および奇穴（ツボ）に関する問題は、経絡経穴概論以外の他の科目でも多く出題されることから、重要な科目の一つである。そのため、国家試験合格に向けた対策として、頻出する経穴・奇穴を解析し、優先的に学習することが国家試験合格の一助となることが考えられる。よって、経絡経穴概論で出題される各経穴・奇穴の出題率について調査することを目的とした。

まず、過去 10 年分の国家試験問題を用い、経絡経穴概論において経穴・奇穴名が記載されている問題文、選択肢を調査した。これら各経穴・奇穴が出題された回数を国家試験 10 回分で除すことで国家試験 1 回あたりの平均出題率を算出した。

出題率が 50% 以上であった経穴・奇穴は 4 穴、40% 台であった経穴・奇穴は 7 穴、30% 台は 36 穴であった。一度も出題されなかった経穴・奇穴は 169 穴であった。

これらの調査結果を踏まえ、出題率の高い経穴・奇穴を優先的に学習することが国家試験合格に向けた対策となることが考えられた。

1. 目 的

1993 年に第 1 回ははり師・きゅう師国家試験（以下、国家試験）が実施され、現在、第 31 回国家試験実施に至っている。国家試験は、はり師・きゅう師国家試験出題基準に基づいて出題されており、出題される科目は、医療概論、衛生学、関係法規、解剖学、生理学、病理学概論、臨床医学総論、臨床医学各論、リハビリテーション医学、東洋医学概論、経絡経穴概論、東洋医学臨床論、はり理論、きゅう理論の 14 科目である¹⁾。14 科目 180 問で構成される国家試験問題のうち経絡経穴概論は約 20 問出題されており、臨床医学各論や東洋医学臨床論に次いで出題数の多い科目であることから、国家試験合格において重点的に学習すべき科目の一つである²⁾。

経絡経穴概論は、体内と皮膚との関係に一定の法則があることを見出し、それらをまとめた学問である³⁾。経絡経穴概論では主に、身体の内（五臓六腑^{注1)}）と外（外部環境）を結ぶルートであり、身体を維持する気血^{注2)}や病の原因とされる邪気^{注3)}が移動する経路である「経絡」と体内の様々な問題が表出する部位、すなわち反応の出やすい部位とされ、治療点となる「経穴および奇穴（ツボ）」について出題される⁴⁾。なかでも経穴は十四経脈（正経十二経絡・督脈・任脈）に所属し、名称を持ち部位が定まっているものとされ、世界保健機構（World Health Organization: WHO）によると 361 穴存在している。これに奇穴と呼ばれる十四経脈には存在せず名称、部位、主治症が定まっている 32 穴を加えると 393 穴存在するとされている⁴⁾。国家試験では、これら経穴・奇穴の取穴法、解剖学的に関連する筋、神経などについて問われることが多い¹⁾。また、経絡経穴概論で主に出題される経穴・奇穴と関連付けた問題が東洋医学概論、東洋医学臨床論、はり理論、きゅう理論でも出題されている。このことから、国家試験における経穴・奇穴の出題率は非常に高く、これらの知識をしっかりと培うことが国家試験合格において非常に重要である¹⁾。

経絡経穴概論が国家試験合格において重要性の高い科目でありながら、取穴法や解剖学的に関連する筋などの基本的な内容から治療における選穴に至るまで体系的

に学ぶ学問であるのに対して、学習意識の低下や暗記に苦勞する等の悩みを抱える学生が本学において散見される。その理由の一つとして 393 穴存在する経穴・奇穴の取穴法、関連する筋、神経、血管などの基本的な要素をすべて暗記することが負担となっている可能性が考えられる。現在、各鍼灸の教育機関において、どのように経絡経穴概論を学習させれば、効率よく学習効果を得ることができるかについて試行錯誤および検証がなされている^{5,6)}。

通常のカリキュラムで実施される授業での進行や取り組み方法を工夫することは重要で有意義であるが、1 年以上の時間をかけて学ぶ経絡経穴概論の内容を 4 年次の国家試験対策ですべて網羅することは難しい。そのため、出題率が高い科目である経絡経穴概論においては、出題傾向を把握し、どの経穴・奇穴を優先的に学習すべきかを順位付けし、実践する必要がある。しかし、他の医療資格の国家試験に関する出題傾向を調査した報告は散見されるが、はり師・きゅう師国家試験に関する出題傾向について解析した報告は現状みられない^{7,8,9)}。また、経絡経穴概論で出題される経穴・奇穴のうち、出題率が高い経穴・奇穴についても調査報告が存在しないため不明である。そこで本研究では、受験生に優先順位を付けた学習を提示することにより国家試験対策の一助となるだけでなく受験生のモチベーションの向上につなげることを目的とし、国家試験の出題率が高い経穴・奇穴を調査し、優先的に学習すべき経穴・奇穴を客観的に把握することを目的とした。

2. 方 法

国家試験における各経穴・奇穴の 1 回あたりの出題率を解析するために、過去 10 年分（第 21～30 回）の国家試験問題を対象とし、経絡経穴概論の範囲において経穴・奇穴名が記載されている問題文、選択肢の数を経穴・奇穴ごとにカウントした。これらを国家試験過去 10 回分で除すことで国家試験 1 回あたりの各経穴・奇穴における平均出題率を算出した（例：過去 10 年で 1 回出題であれば出題率は 10%）。

3. 結 果

過去 10 年分の国家試験問題における 1 回あたりの平均出題率の結果を表 1 に示す。出題率 50% 以上の経穴・奇穴は 4 穴であった。そのうち、足三里の出題率が 90% で最も高い出題率で出題され、次いで足五里、陰谷、列欠の 3 穴が出題率 50% であった。出題率が 40% 台の経穴・奇穴は 7 穴、30% 台が 36 穴であった。出題率 30% 未満の経穴・奇穴は 346 穴で、そのうち出題率 0% の経穴・奇穴は 169 穴存在した。

各群の全経穴・奇穴に対する出題率を算出した結果、50% 以上の経穴・奇穴が約 1%, 40% 台が約 1.7%, 30% 台が約 9.2%, 30% 未満が約 88% であった。なお、出題率が 0% の経穴・奇穴は全経穴・奇穴のうち約 43% 存在した。

4. 考 察

14 科目 180 問で構成されている国家試験に合格するためには、総合的に学習することが求められるが学習の負担は大きい。国家試験で出題される 180 問のうち、経絡経穴概論の出題数は約 20 問である²⁾。また経穴・奇穴に関係した問題は、経絡経穴概論以外の科目である東洋医学概論、東洋医学臨床論、はり理論、きゅう理論でも出題され、例年、合計 30～50 問程度出題されている。よって、経絡経穴概論および前述の 4 科目で経穴・奇穴に関連した問題は 50～70 問程度出題されていることになる。これは、国家試験で出題される 180 問のうち約 28～39% を占めることになる。このことから、出題率の高い経穴・奇穴を調査し、優先的に学習すべき経穴・奇穴を選出することは非常に有意義であると考えられる。

表 1. 過去 10 年分の国家試験問題における経絡経穴概論での経穴・奇穴出題率（出題率 30% 以上）

No.	出題率	経穴・奇穴名	No.	出題率	経穴・奇穴名
1	90%台	足三里	26	30%台	申脈
2	50%台	足五里	27		至陰
3		陰谷	28		少沢
4		列欠	29		秉風
5	40%台	陽陵泉	30		少海
6		懸鍾	31		通里
7		支正	32		陰陵泉
8		肩外兪	33		腹哀
9		三陰交	34		下関
10		陽溪	35		人迎
11		温溜	36		気衝
12	30%台	陰包	37		下巨虚
13		風市	38		豊隆
14		膝陽関	39		解溪
15		足竅陰	40		商陽
16		関衝	41		合谷
17		陽池	42		臂臑
18		外関	43		扶突
19		天膠	44		孔最
20		翳風	45		太淵
21		間使	46		魚際
22		太溪	47		痞根
23		復溜			
24		築賓			
25		跗陽			

今回の調査では、過去 10 年分の国家試験問題を対象とし、奇穴を含む全経穴・奇穴 393 穴における 1 回あたりの出題率を調査した。その結果、出題率 50% 以上の経穴・奇穴が約 1%, 40% 台が約 1.7%, 30% 台が約 9.2%, 30% 未満が約 88% であった。この調査事実から、1 回あたりの出題率が 30% 以上の経穴・奇穴 47 穴（全体の約 12%）についての取穴法、解剖学的に関連する筋、神経を優先的に学習し、次いで出題率 0% であった経穴・奇穴（全体の約 43%）を除いて学習することで、国家試験合格に向けた効率の良い学習に活用できるものと考えられる。

但し、国家試験対策のみに焦点をあてた学習では、はり師・きゅう師資格取得後に臨床現場で使用する経穴・奇穴を網羅することはできない。近年、はり師・きゅう師の臨床現場で頻繁に使用されている経穴・奇穴を調査し、その中でも治療に使用する頻度が最も高い 10 穴（足三里、三陰交、天柱、風池、肩井、腎兪、合谷、大腸兪、百会、曲池）が紹介されている¹⁰⁾。本調査で得られた国家試験で 50% 以上出題されていた経穴・奇穴のうち、上記文献で報告されている 10 穴に該当する経穴・奇穴は足三里のみであった。30% 以上出題率されている経穴・奇穴では、足三里、三陰交、合谷が該当していた。

これらの結果を踏まえ、国家試験合格に向けた経絡経穴概論の学習を行う際、過去 10 年で出題率の高い経穴・奇穴から優先的に学習し、出題率の低い経穴・奇穴を学習する優先順位を下げるのが国家試験対策において重要であると考えられた。国家試験合格のために経穴・奇穴を学習することが重要であることは出題率が高い点から明らかであるが、実際にははり師・きゅう師が臨床現場において、患者に治療を行う際に、患者の症状に対して適した経穴・奇穴や筋を対象に治療を行うことが一般的である。そのため、資格取得のためだけでなく治療を行う際に必要不可欠な知識であることは明らかである。一方で、はり師・きゅう師資格取得後に臨床現場で頻繁に用いる重要な経穴・奇穴と国家試験で高出題率の経穴・奇穴はほぼ一致していなかった。本調査事実については、現状、関連する文献が存在しないことから今

後調査が必要である。経絡経穴概論の授業内容と国家試験対策内容は、学習効果の点では相違する可能性のあることが本研究より判明した。

- 注 1. 東洋医学における臓腑は、西洋医学の内臓とは異なり人体の生理作用の源であり、精神活動の中心でもあるとされる。また、人体の各部の状態や機能も臓腑がつかさどっている。その臓腑には五臓と六腑などがあり、五臓とは、肝、心、脾、肺、腎をいい、六腑とは、胆、小腸、胃、大腸、膀胱をいう。臓は精気を貯蔵し、腑は飲食物を消化、吸収、排泄する役割を持つとされている。
- 注 2. 気は人体を構成し、生命活動を維持する精微物質で、血は血脈中を流れる赤色の液体で、豊富な栄養分を有し、全身をくまなく滋養するとされる。これらが人体の内外を網の様に連絡している経絡を巡って全身を循環し、身体を栄養するとされている。
- 注 3. 邪気とは、東洋医学で各種疾病の発病因子を指す。

文 献

- 1) 厚生労働大臣指定試験登録機関 公益財団法人 東洋療法研修試験財団. 厚生労働大臣指定試験登録機関 公益財団法人 東洋療法研修試験財団 あん摩マッサージ指圧師, はり師, きゅう師国家試験出題基準 2020 年版(墨字版) [Internet]. 東京: 公益財団法人東洋療法研修試験財団; 2020. [cited 2023 May 29]. Available from: <https://ahaki.or.jp/exam/guide/>
- 2) 厚生労働大臣指定試験登録機関 公益財団法人 東洋療法研修試験財団. 厚生労働大臣指定試験登録機関 公益財団法人 東洋療法研修試験財団 あん摩マッサージ指圧師, はり師, きゅう師国家試験 報告書 [Internet]. 東京: 公益財団法人東洋療法研修試験財団; 2019. [cited 2023 September 12]. Available from: <https://ahaki.or.jp/wordpress/>
- 3) 教科書執筆小委員会. 経絡・経穴の基礎 (第 1 章, 1. 経絡・経穴の誕生). 新版 経絡経穴概論 第 2 版 (東洋療法学校協会編), 医道の日本社, 神奈川, p2,

2013.

- 4) 教科書執筆小委員会. 経絡・経穴の基礎 (第1章, 4. 経穴の概要). 新版 経絡経穴概論 第2版 (東洋療法学校協会編), 医道の日本社, 神奈川, p7-8, 2013.
- 5) 木村 博吉, 白井 明宏, 水野 浩一, 金子 弘志, 杉山 誠一. あはき教育を考える『現場から見た学習指導上の課題』東海医療学園専門学校におけるミニッツ・ペーパーの導入の試み. 鍼灸手技療法教育. 2007; 3: 25-29.
- 6) Aki SUGANO, Tsuyoshi ODA, Mika OHTA, Minoru KUMAOKA, Shinichi KITA, Tetsuya WATANABE et al. Effectiveness of ontology-based learning material of acupuncture and moxibustion for visually impaired people. 神戸常盤大学紀要. 2016; 9: 23-34.
- 7) 樋口 健太. 診療放射線技師国家試験問題の放射化学に対する出題傾向の調査. 日本医療大学紀要. 2022; 8: 17-23.
- 8) 阿部 裕一. 第51回～第56回理学療法士国家試験の物理療法問題に関する出題傾向の分析. 福島県理学療法紀要. 2022; 10: 15-17.
- 9) 田辺 達磨, 大澤 裕行, 松本 揚, 田村 哲也, 根岸 春樹, 神長 まどか et al. 柔道整復師国家試験の外科学概論出題傾向について—第14回から第26回の出題について—. 了徳寺大学研究紀要. 2019; 13: 81-85.
- 10) 篠原 昭二, 若山 育郎, 柳澤 紘, 山下 仁, 井田 剛人, 金子 聡一郎 et al. 日本東洋医学会会員及び鍼灸学系大学協議会加盟大学教員を対象にした経穴の使用実態に関するアンケート調査. 日本東洋医学雑誌. 2021; 72(3): 287-301.

— プロフィール —

長岡 伸征 鈴鹿医療科学大学保健衛生学部鍼灸サイエンス学科・助教 修士 (医科学)

〔経歴〕2008年鈴鹿医療科学大学鍼灸学部鍼灸学科卒業, 2010年三重大学大学院医学系研究科修士課程修了, 2010年鈴鹿医療科学大学鍼灸学部鍼灸学科助手, 2013年鈴鹿医療科学大学鍼灸学部鍼灸学科助教, 2018年より現職。〔専門〕鍼灸学, 生化学, 分子生物学。

松岡 慶弥 鈴鹿医療科学大学保健衛生学部鍼灸サイエンス学科・助手 修士 (医療科学)

〔経歴〕2018年鈴鹿医療科学大学保健衛生学部鍼灸学科卒業, 2023年鈴鹿医療科学大学大学院医療科学研究科修士課程修了, 2023年より現職。〔専門〕鍼灸学, 神経科学。

浦田 繁 鈴鹿医療科学大学保健衛生学部鍼灸サイエンス学科・教授 博士 (鍼灸学)

〔経歴〕1999年明治鍼灸大学鍼灸学部助手, 2004年鈴鹿医療科学大学鍼灸学部鍼灸学科講師, 2007年鈴鹿医療科学大学鍼灸学部鍼灸学科准教授, 2010年鈴鹿医療科学大学鍼灸学部鍼灸学科教授, 2018年より現職。〔専門〕鍼灸学, 神経生理学, 薬膳。

Question frequency of acupoints in the acupoint and the meridian overview of the national examination for acupuncturist and moxibutionist

Nobuyuki NAGAOKA, Keiya MATSUOKA, Shigeru URATA

Department of acupuncture and moxibustion, Faculty of Medical Science,
Suzuka University of Medical Science

Key words: Meridians and acupoint, Acupuncturist, Moxibutionist, National examination

Abstract

National examination for acupuncturist and moxibutionist has been conducted 31 times so far. The national examinations are given in 14 subjects and questions related to introduction to the acupoints are important because they are given in several subjects. We investigated the question frequency of acupoints in the acupoint and the meridian overview in the national examination. Questions were chosen from the last 10 exam questions for the analysis. The results revealed that the most frequently asked acupoint questions were about the ST36 (Zusanli). Then, setting questions of LR10 (Zuwuli), KI10 (Yingu), LU07 (Lieque) were questioned next most often. These acupoints had questions rate of more than 50%. In preparing for the national examination, it is important to give priority to the study of acupoints with a high percentage of questions. Understanding the tendencies of the questions could help improve efficiency of preparing for the national examination.